

事業の背景・目的

玉之浦町は高木層でスダジイ、タブノキ等、亜高木・低木層でヤブツバキ等、草本層でウンゼンカンアオイ等の南方系自然林が残存する。しかし住民の自然への関心は高くなく、さらに年々増加するシカが町の森林を荒廃させている。そこで地域住民に対して、西海国立公園内の自然を地域の財産と感じてもらい保全するインタープリターを育成する。更に海外への活動紹介をするため、インバウンド受け入れ態勢を強化する目的で、伝統文化の説明などの英訳を進める。



事業の内容

自然林を含む森を保全する目的で3つの事業を実施する。エコツアーを地元住民とともに立ち上げる（エコツアー事業）。保全のため捕獲した獲物の革クラフト等体験プログラムなど新たなビジネス（自然利活用事業）や教材の提案（自然教育開発事業）を進めていく。

事業① エコツアー事業

- エコツアーの技術を上げるために専門家の指導の下でより高度な実地研修を行った。
- 月刊誌のフリーライターやカメラマン、ウェブ雑誌の企画者を呼んで、「広告の出し方講座」を実施した。
- 「五島のエコツアーガイド教則本」を作成した。



事業② 自然利活用事業

- レザークラフト職人から基本的な技術について指導を受け製品の品質向上を図った。
- レザークラフトワークショップの中で利用することを目標にクラフトキットを開発した。

事業③ 自然教育開発事業

- 地元の小中学校の先生に協力してもらい、地域の花や貝殻などを使った物産品製作プログラムを立ち上げた。

得られた成果

- インタープリテーションを理解した民泊経営者と遊漁船経営者の2名が新たな有償エコツアーガイドとして活動を始めた。
- PerfectBoat3月号、日航会員誌AGORA5月号(予定)に当地の活動が紹介。
- 「五島のエコツアーガイド教則本」は100部作成し、拠点である「鶴田商店」で配布した。小学生から大人までが熟読している様子が見られた。読者から、増版を求められているので、改訂版を作る。
- 鹿革の製品については、昨年度までが31万円程度の売上だったが、今年度は倍増し、77万円を超えた。
- クラウドファンディングなどを使って物理的な拠点として「鶴田商店」を住民たちと立ち上げたことで、今後実施するエコツアーの受付窓口や製品の販売、イベントの実施ができる体制ができた。
- 次年度は長崎新幹線の開通や五島舞台の連続テレビ小説が始まるなど恵まれた状況にあるので、この時期にインバウンド受け入れ態勢強化を進める。具体的には魚や花など「フェノロジー暦」の和英版作成。地元祭りや神楽の英語版作成とネイティブガイドの導入を進める。

